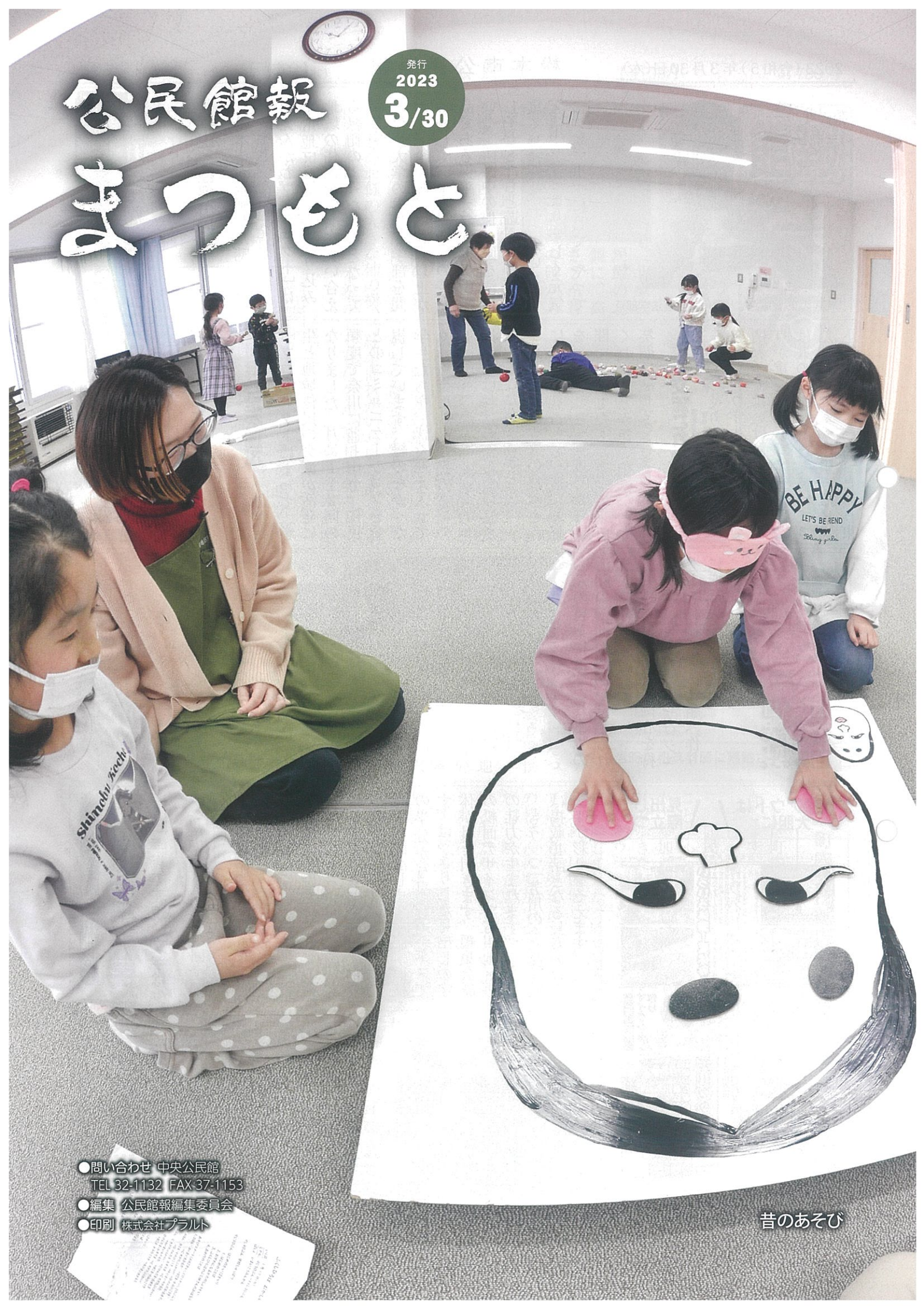




公民館報

発行
2023
3/30

まつもと



- 問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
- 編集 公民館報編集委員会
- 印刷 株式会社プラルト

昔のあそび

視点

⑩学生と住民の交流をこぼへ
奈川えんがわプロジェクト

奈川えんがわ
プロジェクト
インスタグラム



学生と住民の縁側

松本市が企画した魅力発見ゼミをきっかけに発足した「奈川えんがわプロジェクト」は、奈川地区に学生が入り込み、地域の住民が気楽に笑い合える縁側のような存在となっています。

信州大学の学生が学部を問わず、多い時には20人以上が参加しています。奈川の特産品である保平カブ収穫の手伝いや、閉園中の保育園を清掃し子どもたちと遊ぶ活動など、広く地域に関わっています。「奈川の今をより楽しく元気に」をテーマにして、やって

みたいことに積極的に取り組めます。

何度も足を運ぶ

プロジェクトによって、学生と地域住民の交流が活発になりました。月に1〜2回の頻度で奈川に通う中で、住民とのコミュニケーションを重視しています。縁のなかった学生たちを、快く迎え入れてくれる奈川地区住民の方々の懐の広さ、温かい人柄など、通わなければわからない良さを知ることができました。

東さんは「カブの農家さんに電話をもらって一緒にお昼を食べたこと、何度目かの訪問で子どもたちが寄って来てくれたことが思い出深い」と笑顔で話してくれました。

続く交流はこれから

まちづくりはこうであるべき、という学生の思い込みで関わってはいけないという視点が重要だそうです。「地域」は人の営みが脈々と続いてきたもので、人生を生きるヒントが詰まっている」という東

奈川の「N」を表現



ひし たいよう 代表の東 太陽さん (信州大学経法学部)



豊かな自然の中で、保平かぶを収穫する様子

さんの言葉には、これまでの活動の密度の濃さが感じられます。東さんは、活動に関心を持つ後輩たちのために、プロジェクトを継続できる仕組み作りに取り組んでいます。

奈川地区の今を
動画に
収めました!



わがまち自慢(芳川地区)
芳川地区の公民館報が全国入賞

「写真で表現、文字は少なく」の紙面作り

令和4年度の第9回全国公民館報コンクールで、芳川地区公民館が奨励賞を受賞しました。

前回令和2年度第8回の鎌田地区公民館に続いての入賞です。

レイアウトは大胆に

紙面レイアウトは委員メンバーが設計します。記事面積の半分が写真のスペースです。はつきりとした見出しの字体が目を引きまします。編集会議の紙面デザインで芳川地区版の魅力が生まれます。

もう一つ「芳川の今昔物語」は掲載40話となる長寿のコーナーが彩りをそえます。



編集委員は10人「写真で表現、文字は少なく」を実践します

レイアウトは大胆に / 見出しは際立つ /

2022 (令和4) 年9月30日(木) 松本市公民館報 【別冊】 面434号

超低温の世界
小原公民館
マイランタン作り
芳川の今昔物語 第40話

(令和4年9月30日号) 参考

館報

はた



令和5年3月1日現在

世帯数 6,320戸
人口 15,411人
男 7,494人
女 7,917人

北原団地

分譲の頃の思い出 余滴



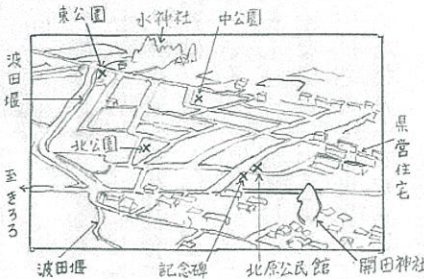
北原公民館の北側に、高さ2m程度の碑がある。



昭和52年当時の北原団地

「北原住宅地記念」とあり、団地誕生の由来が書かれている。この地は元々桑畑やリンゴ畑などの農地だった。目立つものといえば、東南角にある水神社のこもりした木立と、その北側の大きな柿の樹西に目を移すと遠く一本松が見えるといった景色だった。25区、26区を隔てる道路も団地誕生前は車がやつとすれ違える道幅しか無かったという。

昭和52年当時の北原団地地区



昭和48年、そんな畑地を県が買上げ、県企業局が造成分譲した。40余名の地主に全区画の35%を還元する方式をとり、紆余曲折がいろいろあったがそれは省略。昭和51年3月に分譲申込みが始まった。その広告が、地元「松筑新聞」にも載った。松本市のベッドタウンとして期待も大きかったのか、購入希望も多く抽選も行われた。「俺の区画は希望者が3

(宅地) 北原団地 (分譲)

環境良好 松本市街地へ車で約10分です

所在地	東京都昭島市北原	分譲期	昭和51年3月19日(金)
今四分換	総敷 7.5 区画	午後1時 波田公民館 (波田町役場の隣)	
区画	250.91㎡~650.98㎡	申込受付	昭和51年3月19日から3月24日まで波田公民館
分譲価格	1区画当り 2,872千円~10,044千円	抽せん会	昭和51年3月25日(水) 午後1時 波田公民館 (波田町役場の隣)
(平均) 1区画あたり約15,480円			
利便等	松本電鉄上高地線波田駅へ8分・波田町役場前バス停留所へ10分・保育園、小・中学校へ10分・商店街へ5分・10分・医療施設へ5分		

当時の松筑新聞に掲載された広告

人いて、役場の抽選所でガラガラをやって決めた。当たって良かったよ」と、当時を懐かしむ方もいた。

また、下見に来たとき、地元の人から「ここは気候もいいし、野菜なんか持ってきてくれたりして、住んでいる人もいい人たちだよ」と言われ購入を決めたという声も聞いた。のんびり穏やかな風情で、実際に子どもが畑のリングゴをいでもいでも食べても咎められる人はいなかったと、これは私もあちこちで耳にした。こうした土地柄は今も健在と思う。

高齢化が進む一方、新築も目立つ所かもしれない。

最後に、貴重な資料を提供いただいた百瀬光信氏、関義弘氏、両氏にお礼を申し上げます。

17区

町内公民館主催 赤松ウォーキング

17区町内公民館の行事を紹介いたします。

コロナ禍で外出機会が減り、住民同士が顔を合わせる機会が少なくなっているなか、参加者がそれぞれのペースで歩きながら交流の場にしようとウォーキングイベントを計画しました。昨年6月26日(日)に開催したイベントでは、老若男女合わせて20名の皆さんに参加いただきました。天候にも恵まれ、初夏の風の中でウォーキングが始まりました。

コースは、17区公民館裏手の梓川堤防道路です。しばらくは梓川を眺めながら下流方向へ歩を進めます。途中「梓川分水工」や「花見サイフォン」等を見ながら川原の林間を進みます。再び、堤防を上ると、今度は右手の風景が開けます。そこは、だいぶ成長した田んぼの苗が風に揺れており、小



約2時間弱のウォーキングを終え、公民館へ無事ゴール！皆さんそれぞれ会話も弾んでいました。各自のゴールを確認後、抽選会を開催し、記念品を受け取りながら、参加者それぞれ久々の交流にたくさん笑顔があふれていました。秋は10月30日(日)に開催し、こちらも多くの皆さんにご参加いただき、紅葉を楽しみながらのウォーキングとなりました。



今後とも地区の皆さんの健康づくりと交流を深める事業として、続けていきたいと計画しています。

満蒙開拓団体験を聞いて

2月21日に波田地区人権啓発推進協議会主催の人権講座に参加しました。内容は、波田21区在住の三村修一さんが満蒙開拓団として入植し、その際に体験された壮絶な史実を、地元梓川高校の生徒さんが画像で再現し発表いただいたものです。

わたしにとつての戦争は、中学・高校等の歴史の授業においての知識のみであり、戦争経験者の方の実体験を伺う機会は今回が初めてでした。そんな中、同じ波田に住む三村さんのお話は、とても衝撃的なものでした。食料不足、病気の蔓延、戦争による死と隣り合わせの日常は、現在の私たちの生活においては想像しづらいものです。ただ現代社会においてもロシア、ウクライナ間の戦争、紛争はなくなりません。毎日のニュースで空爆等の映像を見ていると、仮に自身が当事者になったらと考えると恐怖が込み上げます。なぜ戦争はなくならないのか。利権、ビジネス等々の様々な面でその要



三村さん(右から三人目)と梓川高校生徒の皆さん

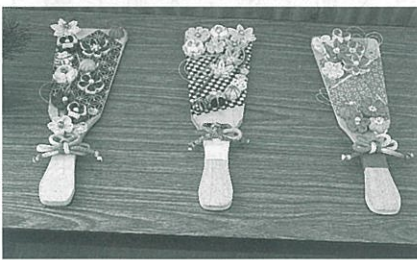
因はあるかと思えます。ですが、どの側面からしても、人々の命を奪う戦争を行う正当な理由にはなりません。むしろ現代社会では「SDGs」において、「平和と公正をすべての人に」と、あらゆる暴力と暴力による死をなくすことに力をいれており、戦争の根絶は世界的に取り組むべき課題でもあります。今後、戦争の悲惨さを実体験として語れる方が少なくなりそうです。辛い過去だからこそ、戦争を知らない我々世代の人たちが深く知る機会が必要であり、今回の講座は過去を知り、将来を考える良い機会となりました。そして梓川高校の生徒さんの学習、発表も素晴らしかったです。

でも印象的でした。三村さんのような方々の経験、歴史を経て、大きく成長をとげた現在の日本の姿があるのだと思います。平和な日々が続くように、自身の家族にも今回の話を伝えていきたいと思いました。貴重なお話をしてくださった三村さん、そして梓川高校の生徒さんありがとうございました。

10区 今年度唯一の行事

今年度も新型コロナウイルス感染症の波が何度かありました。計画した行事がほとんど中止になるなか、昨年12月に婦人部の企画で、正月飾りになる「ちりめん細工教室」が唯一開催されました。

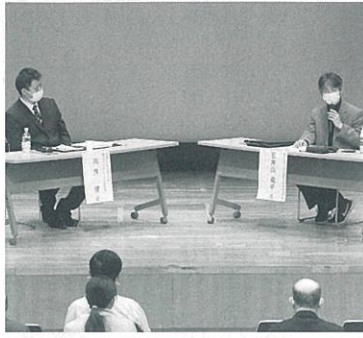
参加人数も限られたなかでの開催となりましたが、松飾り、羽子板のどちらかのコースの中から希望する作品を選び、講師から教わりながら作られていました。事前に用意された素材を切ったり、ボンドで



「合掌坂」の名前の由来を伝える看板

また三九郎は、コロナの感染状況と高学年の子どもの人数が少ないため、中止となつてしまいい残念でした。他地区では、開催できたところもあつたようです。来年度は、ある程度の規制も緩和されると思うので、地域の伝統行事が途切れることもなく開催されることを願っています。

「合掌坂」 皆さんは「合掌坂」をご存じですか。あわじ通りから13区の集落センターの道沿いにあります。瀬東と上波田との間にあります。この道を少し下がった場所に道標があります。その道標には、右方向に行くと「船場」を至て梓川村に至る、左方向に行くと「赤松に至る」と記してあります。実際歩いてみると、右に向かう道は幅が狭く、道が崩れている箇所がいくつもありません。左に向かう道は幅も広く、波田堰へ続いていました。この道を馬車が通っていたようです。瀬東から梓川村まで渡し舟が運航されており、生活の一部として利用されていました。上波田には上海渡と寺山の間に「長坂」、上海渡と赤松との間には「おさつ坂」があります。皆さんも一度は歩いて、歴史を感じてみてはいかがでしょうか！



対談を行う石井山さん(右)と向井さん

全体会では、東北大学大学院教育学研究科准教授の石井山竜平さんが「未来に託せる地域を目指す人々の学びと取り組み」と題して基調講演をしました。

全体会

東日本大震災被災地復興のプロセスから、ポストコロナにおける地域再生について考える内容で「災害時には地域社会のもととの姿が浮き彫りとなる。否定せず受け入れて、少しずつでもつながっていくべき。地域づくりの第

一步は毎朝の挨拶から。自ら考え行動できる力をつけていくことが大事。公民館活動が盛んな松本にはそのポテンシャルがある」などと話しました。

分科会

午後からは8つの分科会に分かれて、テーマごとに事例発表や研究発表が行われました。この中から2つの分科会を紹介します。

講演のあとは、松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ科准教授の向井健さんと対談があり「社会教育や公民館活動を通して、住民同士支えあう関係性が自然と育まれるということ、未来を託す若者や子どもたちに示してほしい」などと話していました。

第1分科会	子供たちの生きる力を高めるために ～地域を舞台とした体験・学びから見えるもの～
第2分科会	松本の伝統行事を次世代につなげよう！ ～ぼんぼんと青山様・三九郎～
第3分科会	「地域行事」って必要な？ ～現代における地域行事は今～
第4分科会	顔が見える関係づくり ～気軽に使える町内公民館～
第5分科会	誰もが安心して暮らせる地域を目指して!! ～地域包括ケア・生活支援体制整備～
第6分科会	地域防災を進めるために必要なこと ～地域づくりの視点から考える～
第7分科会	ワカモノ×地域=賑わす ～若い世代の地域参加を考えよう～
第8分科会	中山間地域の持続可能な地域づくり ～奈川・四賀の事例から考える～

▼こうして書いてきて、何と贅沢な散歩コースかと改めて思う。これからも里山の自然に感謝しつつ、元気を頂いて散歩に励もうと思っっている。

また「つなげよう青山様・ぼんぼん」と題した児童会新聞を作成し、町会全戸に配布しました。行事を忘れないでほしい、継承してほしいという思いがすこく伝わってきて、コロナ禍での工夫がすばらしい事例だと感じました。

分科会

第5分科会には70人が参加しました。このテーマに多くの方が関心や悩みを持っていることがわかります。地域で実践されている生活支援や居場所づくり、NPO法人との連携による事例発表があり、高齢化、生活支援といった問題にどう取り組んでいけばよいか話し合いました。

未成年で第1分科会のコーディネートを務めた山田明文さん(小5)は「年配の方が多いので、もっといろいろな世代の人に来て聞いてもらいたいです。ほかにも面白い分科会があったので、一日だけではなく、何日にも分けていろいろな参加できるようにしてほしいです」と話してくれました。

おこひる

朝の散歩を始めてから8年ほどになる。幼い頃から体力に自信がなかったが、近頃は随分健康になった▼自宅は三十余年前に市が造成した団地の中にある。団地の東側を降りていくと、棚状に並んだ田んぼが見通せて、田植えの時期から稲刈りの頃まで様々な景色を見せてくれる。田植えの終わった水面に朝日が映し出される様は、幻想的で絶景だなど、毎年思う。時々見かけるカモの泳いでいる様子は、何ともいえない程可愛らしい▼その日の気分をコースを変えて、アルプスを遠く見渡せる展望台の方から下っていく。遊歩道に沿って植えられた様々な木々の足元には、四季折々に草花が咲いている。これらは、隣家のご夫婦が長年にわたって苗を植え、お世話をされてきたものだ。梅雨の時期には、多種多様な色のアジサイが見事に咲き誇る。小さな株も入ると200本近くもあるようだ▼こうして書いてきて、何と贅沢な散歩コースかと改めて思う。これからも里山の自然に感謝しつつ、元気を頂いて散歩に励もうと思っっている。

この集会は2月19日、Mウイングを主会場に開催し、午前の全体会と午後の分科会併せて、約300人が参加しました。

未来をつなぐ私たちのまちづくりの集い
第38回公民館研究集会 令和4年度地域づくり市民活動研究集会

未来を切り拓く学びと自治
ポストコロナにおける地域再生

歴史探訪

探ろう松本 33

笹賀地区

地区東側は奈良井川で、かつて一帯は桑畑がありました。第二次世界大戦時に造営された松本飛行場に隣接して、信州まつもと空港が作られました。

概要

松本市の南部に位置する笹賀地区は14町会、人口10,688人、世帯数4,647世帯、高齢化率は26.9%です(2月1日現在)。

歴史

笹賀地区には縄文時代からの古墳があり、古くから開けた土地でした。室町時代の今村観音堂の阿弥陀如来像(市重文)も伝えられています。1725(享保10)年、水野氏の改易で戸田氏が藩主となり、1743(寛保3)年



ステージ発表をビデオで見ると、また違う印象

以降幕府領とされ、後に松本藩預り領となりました。

地名の由来

1876(明治9)年の「長野県町村誌」に古事、捧の庄に属すと聞く」とあり、笹賀地区は当初笹下村と呼ばれていました。

捧の庄はこの辺一帯にあった皇室の荘園のことです。

合併分離を繰り返す

1874(明治7)年、下子・神戸・神戸新田・小俣・今村の5ヶ村が合併し、笹下村が誕生しました。しかし水利関係などで合併に無理があり、1879(明治12)年5つの村に戻りました。その後1889(明治22)年全国的な町村合併の流れを受け、5ヶ村が再度合併し、笹下を笹賀に変え笹賀村となりました。

時代は下って1954(昭和29)年8月、前年に施行された町村合併促進法により松

本市と合併し、笹賀地区が誕生しました。



eスポーツって五輪の競技候補なんだって!

公民館活動

コロナ禍でウォーキング大会や町会対抗グラウンドゴルフは中止を余儀なくされましたが、住民の交流を途絶えさせないように、文化祭のステージ発表を、ビデオ撮影したものを放映して、皆さんに見てもらおうなど工夫して活動しています。

コロナ前から15年以上続けている、児童の登下校見守りは56人の会員が「安全サポーター」となり活動しています。今後、eスポーツ(コンピュータを使ったゲームをスポーツと捉えた呼称)やVR(仮想現実)による疑似体験)にも取り組む予定です。

また、公民館を不登校の子の居場所として「ほっとスペース笹賀」を開設する予定です。

昔の遊び

表紙について



1月17日(火) 午前9時50分~11時30分
3年ぶりに開催。今井小1年生が、地域の皆さんとけん玉、こま、福笑い、紙飛行機など昔の遊びで交流をしました。楽しそうな声が終始飛び交っており、賑やかな時間となりました。

(撮影 2023.1.17 今井公民館)

松本平の野鳥たち



ヤブサメ (2022.4 松本市中山 写真提供:信州野鳥の会)

ウグイスに近い小鳥で、尾がとても短い。全長10.5cm。全身が淡い褐色で眼上部にある眉斑は明瞭(雌雄同色)。広葉樹林で沢沿いの藪のような場所が好みで見かけることは少なく、鳴き声(シィ シィ シィ...と虫のような鳴き声)により気付かされることが多い。しかし、囀りは高音のため、高齢の方には聞き取れないことがあり、松本市の里山では夏鳥として普通だが、気がつく人は少ない。